

【改革フォーラム案】

苫小牧市議会広報広聴ビジョン(案)

1 策定の目的

近年、人口減少や少子高齢化といった社会構造の変化、地球温暖化をはじめとした環境問題など、私たちを取り巻く社会情勢は目まぐるしく変化を続けています。苫小牧市においても、次世代半導体関連企業やデータセンターの立地など経済情勢が大きく変化する中で、産業拠点都市としてのさらなる躍進が期待されている一方、まちの顔となる駅前の再開発や東西バランスの問題など、市民が一丸となって考えるべき地域課題が様々あります。

そうした地域課題を解決し持続可能なまちの発展を支えるために、市民の意見を行政へ提言し政策に反映する地方議会の役割は、ますます重要性を増しています。

苫小牧市議会では平成31年4月に、より一層、市民に開かれた議会を目指すことにより、市民の福祉の向上及び市政の発展に寄与することを目的として、議会基本条例を施行しました。

議会基本条例第3条第4号には、「議会の活動原則」の一つとして、情報公開及び広報広聴を充実させ、市民への説明責任を果たし、市民参加の機会拡充に努めることを定めています。また、第8条には、「広報広聴の充実」として、多様な広報広聴手段を活用することにより、議会活動に関する情報の積極的な公開及び発信並びに市民の意見の把握に努め、広報広聴の充実を図ることを定めています。

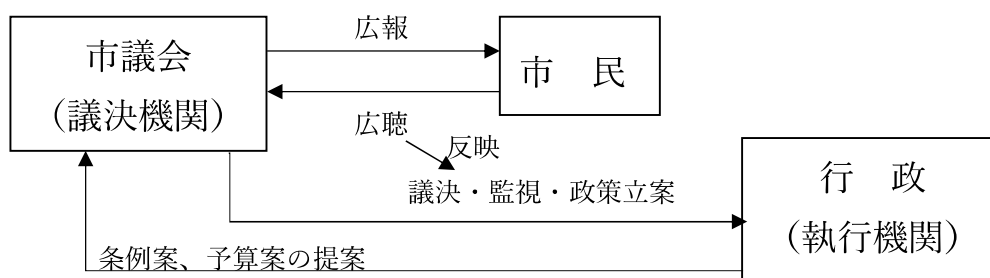
議会の広報広聴活動は、議会の活動や成果等を市民に向けて発信する広報の取組と、地域課題や市民ニーズを広く的確に把握する広聴の取組が相まって、議会に対する理解や関心、参加意識を高める契機となるなど、議会と市民を結ぶ重要な役割を担っています。

さらに、市民からの負託を受けた機関としての責任を果たす上でも、「広報」と「広聴」は、市民自治の実現に必要不可欠です。

本市議会では、議会基本条例の制定を契機として、それまでの取組に加え、市民との意見交換会の実施やソーシャルネットワーキングサービス(以下「SNS」という。)の活用、記者会見を通じた情報発信など、各種取組を実施してきました。

しかし、議会基本条例に掲げた理念の実現のためには、さらなる戦略的取組が重要であり、苫小牧市議会広報広聴ビジョンを策定し、各種取組を展開することにより、市民に対し議会の役割と意義を伝え、議会活動の透明性と信頼性の向上を図ることで、開かれた信頼される議会の実現を目指してまいります。

【広報広聴のイメージ図】



2 策定の背景

市民ニーズの多様化

加速する人口減少や少子高齢化、デジタル社会の進展などの社会環境の変化とともに、市民生活の中でも様々な生活様式や働き方が生まれている中、地域課題が複雑化するとともに市民のニーズが多様化しています。こうした地域課題や多様な市民ニーズへ対応するため、必要な情報を必要な人に的確に届けるためには、これまで以上に効率的で効果的な広報広聴の充実が求められています。

また、高齢者や将来を担う若者など、幅広い世代のまちづくりへの参画推進のためにも、明瞭で分かりやすく、より親しみやすい情報提供の重要性が増しています。

多様化する広報広聴手法

情報通信技術（以下「ICT」という。）の発展に伴い、かつてはパソコンがインターネットの接続端末としては主流でしたが、現在はスマートフォンが高齢者層も含め主流となっており、その普及率は全体で74.4%となっています。また、拡散性のあるSNSを活用して情報収集や情報発信を行う人々も増えています※1。

本市議会においても、令和3年度よりタブレット端末を活用したペーパーレス会議システムを導入するなど、ICT活用の取組を推進してきましたが、広報広聴の分野においても新たな展開を図り、幅広い世代や人材に行き渡り関心を持ってもらえる手法を取り入れる必要性が高まっています。

開かれた議会、信頼される議会を目指して

議会は、「活動が市民にとって見えづらい・分かりづらいこと」や、「若者の政治への関心の希薄化」、「議員への成り手不足」などの様々な課題を抱えています。それらの課題に向き合うためには、市議会議員の議会や地域での活動内容や仕事の魅力等を発信し、その存在意義を明確化するとともに、市議会議員の役割、成果等の透明性の確保を図ることが不可欠です。

※1 総務省発行「令和7年版情報通信白書」によると、スマートフォンの利用率は、2011年は16.2%だったのに対し、2024年には74.4%に増加している。また、高齢者層でも、60代（2011年:2.5%、2024年:78.8%）、70代（2011年:0.7%、2024年:53.0%）のいずれも大きく増加している。

SNSについても、全体的に若年層の利用率が高い傾向にあるが、2024年にはX、Instagramは全体の半数程度が利用しているほか、50代でも2024年に4割以上が利用するなど、幅広い年齢層に利用が拡大している。

3 基本方針

方針1 市民に寄り添った広聴活動を行います！

市民の声に広く丁寧に耳を傾け、市民に議会をより身近に感じてもらうため、本市議会主導により広聴活動を行い、地域課題や市民ニーズを的確につかんでまいります。

そして、二元代表制の一翼としての役割をしっかりと果たしてまいります。

方針2 分かりやすい、正確かつ迅速な情報発信を行います！

戦略的、明瞭、迅速に議会や議員活動の内容を様々な手法により市民に伝えることで、議会を知ってもらう、議会に関心を持ってもらう、議会を理解してもらうきっかけづくりとします。

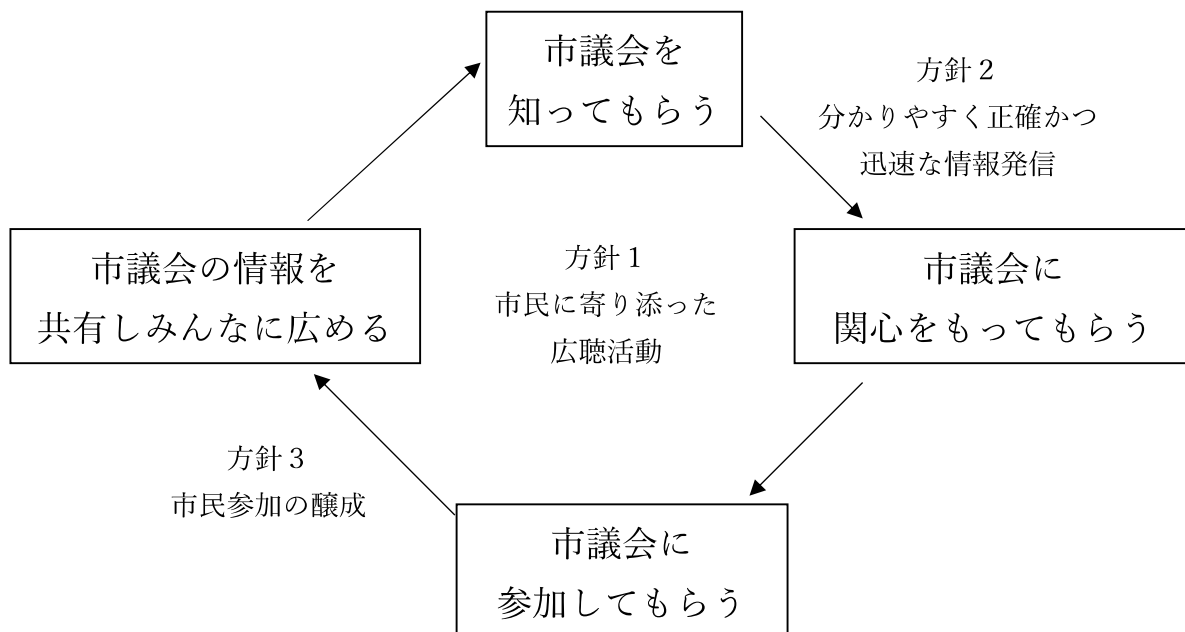
そして、議会活動の透明性の確保と開かれた議会を目指してまいります。

方針3 市民参加の醸成を図り、市民との情報共有を進めます！

市民参加の機会を創出し、議会活動の内容を広く発信することにより、地域課題への関心を高め、市民の市議会への参画意識の醸成を図ります。

そして、市民と情報や地域課題を共有し、信頼の構築を図ってまいります。

本議会が目指す広報広聴のイメージ



4 広報広聴の手法

【広報広聴活動の実施ポイント】

ターゲティング^{※2}の実施

地域課題や市民ニーズが多様化する中、必要な情報を必要な人に的確に届けるためには、コミュニティごとに抱える課題の違いや年代による意識の差などに留意した広報広聴活動が重要となります。

ターゲットを絞りそれぞれの属性に合わせた広報媒体を工夫することで、効率的・効果的な情報発信の実現を目指してまいります。

I C T化を含む幅広い手法の活用

若年層や中高年層と幅広い層の市民に対して、どのように市議会に興味を持ってもらうかが広報広聴の取組の大きなポイントとなります。

従来の紙媒体やインターネット等による情報発信や常任委員会で実施している市民との意見交換会に加え、視覚面での訴求効果が高いうえ手軽な点から多くの人々に利用されているSNSの活用、参加者の主体性を重視した体験型セミナーとしてのワークショップの開催など、それぞれの年代や目的に合ったアプローチにより、市議会に対して多くの市民の関心を得られる取組を実施してまいります。

各種取組の連携

SNSはリアルタイムでの情報発信が得意ですが、一度の情報量が限られます。また、従来の手法である新聞への記事の掲載や、ポスター・リーフレットなどの紙媒体での広報においても、伝えられる情報量に制限がある一方で、ホームページは多くの情報を提供できますが、形式的な内容になりやすく、親しみやすさを感じにくくなる可能性があるなど、それぞれにメリットとデメリットがあります。

そのような弱点を補うためには、それぞれのコンテンツをつなぐ、リンクやQRコードの活用が有効であるため、それらを活用し、利便性の向上や情報の魅力の強化、コンテンツへの訪問者の増加を図ってまいります。

※2 ターゲティングとは、特定の属性や興味を持つ人々を明確に定め、そのグループに対して、適切な内容及び方法でメッセージを届けることを指します。

【具体的な取組】

本市議会では、これまでも本会議や委員会の結果報告、議会改革などの議会活動の発信に加え、市民との意見交換会を行うなど、様々な手法により広報広聴に取り組んできました。

今後、さらに分かりやすく幅広い世代に広く行き渡るよう、新たな情報発信の手法にも取り組めます。

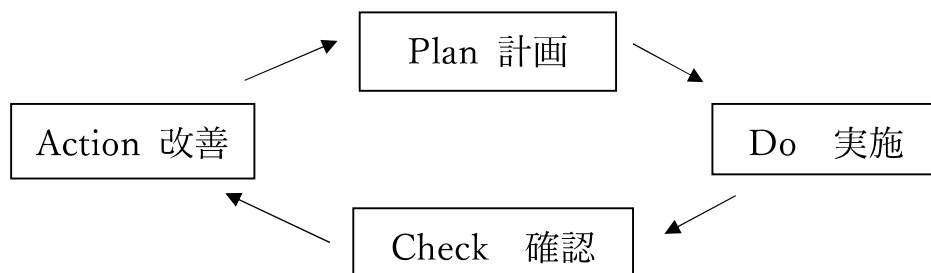
（仮）

分類	手段	内容
広聴	陳情・請願の受付	市民意見の反映
	意見交換会	市民意見の吸い上げ
	ワークショップ	課題の抽出
	アンケート調査	
	市議会ホームページお問い合わせフォーム、電話、対面	
広報	Facebook	各種情報の配信
	Instagram	・議員の議会での活動
	YouTube	・議員の議会以外での活動 （委員会活動、視察など）
	その他 SNS	・議会日程 ・行政視察受け入れ
	市議会ホームページ	市議会に関する情報の掲載 ・議員名簿 ・議会日程 ・議会報告 ・会議録の公表
	紙面	議会報告
	ポスター・リーフレット	公共施設などでの情報発信
	プレスリリース	定例会及び臨時会等に係る情報のリリース
	記者会見	市議会における取組への取材依頼

5 事業実施

苫小牧市議会広報広聴ビジョンに基づく取組については今年度(令和7年度)から検討を始め、優先度の高いものから実現を目指します。その後は、2年ごとに計画、実施、確認、改善を繰り返し(PDCAサイクル※3)、時代に合わせた有効な広報広聴事業となるよう取り組んでまいります。改善、計画に当たっては、取組の実施に要する人的・時間的な資源に対する効果の検証や、外部環境の変化、新たなコンテンツの有無などから判断してまいります。

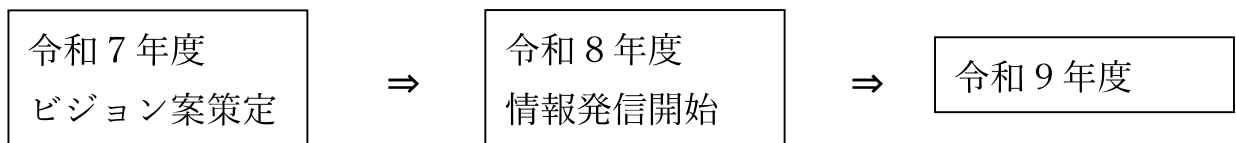
【PDCAサイクルイメージ図】



6 スケジュール

苫小牧市議会広報広聴ビジョンで示した具体的な取組は、令和8年度初旬から中旬ごろに開始してまいります。

そのほか、具体的なツールに基づき適宜、広報広聴活動を展開してまいります。



※3 PDCAサイクルは、業務やプロジェクトの継続的な改善を目的とした管理手法で、計画(Plan)の実行(Do)、確認(Check)、改善(Action)の4段階から構成されます。まず、目標に基づき計画を立てて、実行します。次に、結果を確認して効果を評価します。最後に、得られた知見を基に改善を行い、次のサイクルに反映することで、継続的な改善を図ります。